

令和7年度 第1回仙台市泉区区民協働まちづくり事業評価委員会概要

開 催 日 令和7年5月26日（月）

出席委員 品田委員長、田中副委員長、草委員、岩佐委員

議 事 令和6年度区民協働まちづくり事業企画事業の事後評価

【事業報告】

区民協働まちづくり事業に関する要綱（平成14年3月25日市長決裁）第6条第2項第2号の規定による事後評価のため、令和6年度企画事業実施団体より実績報告書の通り報告。

【質疑応答】 [Q：質問 A：回答]

・大学連携地域づくり事業（いずみ絆プロジェクト支援事業）

Q：年度ごとに学生は新しいメンバーが加わるのか、継続するのか。

A：令和6年度までは各大学から推薦いただいていた各大学から1名を集めており、年度ごとに新しいメンバーとなっていた。令和7年度はその枠を取り払って公募という形に変更したため、継続して参加する学生が出てくる可能性もある。

Q：令和7年度のメンバーが令和6年度実施したことをどう引き継いでいくかが重要。

A：これまでは年度ごとの活動だったため、引き継いでいくということにはなかったが、令和7年度からは継続した取り組みにする予定である。

Q：財源経費について令和5年度決算にある調査委託料について令和6年度の決算はなかったのか。

A：令和5年度は動画を作成したが令和6年度は作成しなかったから費用が掛からなかった。

Q：助成団体に東北学院大学がないようだが。

A：助成事業には申請いただいていないが学生交流事業には参加いただいているので引き続きそちらで参加いただければと考えている。

・将監沼ふれあい事業

Q：仙台市内に約1850か所の公園がある。他の公園との兼ね合いも考えるとどうだろうか。人手不足については高齢化や町内会への加入しない方が増えていること等があるので難しい問題だと思うが、今後の課題として担い手が不足してきていることを踏まえれば維持管理費について深く考えなければいけない。町内会の負担金を求めるとか、桜まつりの時に募金箱の設置を考えてはどうか。またPTAにも参画してもらってはどうか。

A：募金箱は設置していたが、災害等の寄付のための募金箱。公園の維持管理への募金

箱の設置は今後検討していく。将監町内会自治会連絡協議会として行事等に力を入れていき各町内会から応援をもらいたいと考えている。

・いずみ朝市

Q：駐車場が変わった影響で来場者数が減少したのか。

A：駐車場の影響というよりは年々来場者が減少している。

Q：出店者が減っているからか。

A：出店者の数も減ってきており現在は12団体。出店者の減少に伴って来場者も減少している。

Q：販売している加工品は何か。

A：缶詰や漬物を販売している。

Q：地産地消の地域に根差しているもののブースを設ける。また外国人が増えているのでそういったブースを設けて多様性を取り入れていくのもいいのではないか。高齢化が進んでいるのでそういった取り組みも重要ではないか。違う目線で取り組んでいくのも面白いのではないか。

Q：減少傾向にあるということだが今後も出店者、来場者減少を見込んでいるのか。

A：今後も減少が見込まれるが、出店者の募集を行っている。新しく出店いただける店舗もあったので今後も出店いただけるように努めていきたい。

Q：出店の手法がわからないということもあるのではないか。場所はいいので告知の仕方ニーズを掘り起こせるのではないか。

A：出店者は減少傾向にあるが4月5月の来場者は例年より増加傾向にあるように思う。米の高騰等による需要が高くなっており、また顔の見える安心感等が好評を得ていること等が理由と思われる。

・ニュースポーツフェスティバル

Q：運営の人数の確保が課題ということだが、どういった方が中心だったのか。また、その方たちは今後減っていくことが見込まれるのか。

A：スポーツ協会の方がメインとして派遣された。減少するかは把握できていない。

Q：人数確保が課題か。ボランティアしたいが活動の場がない大学生がいる。帰宅部の高校生の活躍の場の提供として高校に声をかけてみるというのも手ではないか。

Q：こども食堂を運営しているが大学に声掛けをすると学生がグループで希望してくる。声掛けが大事ではないか。各世代が考えるゲームというものに差があるのではないか。アンケートなどを実施してニーズを把握するのがいいのではないか。

Q：世代間交流とのことだが、どのような年齢層が参加しているのか。

A：ニュースポーツはふるさとまつりのなかのイベントとして実施しているので親子連れなどが多い。ペタンクは地区対抗で実施しており中学生など。

Q：ふるさとまつりに合わせて行っているが、熱中症対策として別の時期に行くことはできないのか。

A：暑すぎて思ったほど活動できない、楽しめないという部分もあるので違う時期を検討してもよいと考えている。対策が必要。

Q：スポーツの普及が目的か。

A：普及というよりはスポーツに親しんでもらうことが目的。

・泉ヶ岳利活用推進事業

Q：荒天のために中止になった場合は事業費について減ったということはないのか。

A：中止となったイベントがあったが事業費の変動はない。自然観察会が中止になったが、事業費が大きくかかるものではないので事業費に大きな影響はなかった。

Q：リーフレットはどこで配布しているのか。地下鉄の駅においてはどうか。

A：地下鉄には設置していない。

Q：地下鉄などに置くと多くの人の目に触れていいと思う。

・泉中央美化推進事業

Q：地下鉄から見ても七北田川堤防の花の文字が読めない。読めない文字を植えてもどうなのか。アンパンマンのような石のキャラクター、ベガッタ君のような石のキャラクターなどにしてはどうか。世話をするのが大変で負担が大きいと思う。

A：実行委員でも検討している。次年度から文字を変更するまたは模様を作ることも検討していく。花よりも周りの草の伸びの方が早く文字が見にくい。今年度は実験的に竜のひげを使用するなど工夫を行いながら少しずつ改善していく。

Q：皆さんで負担のないような形でやっていただければ継続しやすいのではと思う。

Q：花を植えた後の管理が大変。青と黄色などボーダーでもよいのではないか。あまり無理しなくてもいいのではないか。見て喜んでもらえればいい。

A：何を植えるかについて、手入れのかからないものなど実験的にガラスアートに取り組んでみて検討していこうと考えている。

Q：花文字があると周知はしているのか。知らなかった。

Q：造花など手のかからないものでもいいのではないか。

A：実行委員会の方に諮っていききたいと思う。

・いずみのふるさと学事業

Q：こどもを参加させるには若い方をターゲットにしないといけない。こどもであればスタンプラリーをしてみるのもいいのではないか。転勤族が多いのでそこをターゲットに、複数回るより1か所にして精進料理を食べるなどという形にしてはどうか。

A：参加者の中には時間が少ないという意見もあるし、もっと回るところを少なくしてゆったり見たいという意見もあった。もっとたくさん見たかったという意見もある。一か所に集中して見学や勉強するというゆったりしたスケジュールもサポーター会で検討し新しい探訪会を作っていければと考えている。

Q：令和５年度に比べて事業費が倍くらいになっている。拡声器が大きな費用となっているのか。

A：拡声器については例年借用していたが借りられない場合があるので、購入した。

Q：サポーター会の中核メンバーは。

A：研修会を受けて入会してきた人たち。平均７５歳くらい。昨年研修会を４回開いてそこで入会して頂いた方もいる。一方で高齢になって参加できない人もいるので、今後研修会を多く開いて参加いただける人を増やしていきたい。

Q：七北田宿、根白石、歴史があるので、縁がある人や小学校を巻き込むなども検討してみてもどうか。

A：小学校は検討したことがなかったが、今後検討する。

Q：冊子を作っているとのことだが、どこで販売しているのか。書店で購入できるのか。

A：区役所で販売している。販売はしていないが図書館にはおいている。

Q：歴史好きの方は欲しい方が多いと思うので区役所で販売していることをもっと情報発信していくとよいのではないか。

・泉区民文化祭

Q：高齢化が進み参加者が減少していくのではないか。外国人が増えているので他の民族の文化も取り入れればもっと楽しい、見たことのないようなパフォーマンスに惹かれて人が増えていくのではないか。

A：外国人を呼ぶということは検討していなかった。泉区の大学や高校には声がけしていたが、そちらもアプローチを検討してみる。

Q：外国の方がたくさんいて集まっているという話は聞く。高齢者や子供だけではなくそういった方たちともたくさんのコミュニケーションをとらないといけないと思う。そういうところからひも解いていくのがいいのではないか。

Q：事業費の比較で会場費大きく変わった理由は何か。

A：会場が令和５年度はイズミティが大規模改修で使えなかったので青年文化センターで行っていたために決算額が増えた。

Q：高校生中学生の参加が好評だったとのことだがどういった内容だったが。

A：八乙女中学校、太鼓、よさこいの演武、茶席を設けてもらって好評だった。

Q：団体のホームページはあるのか。調べようとしたら見つからなかった。どういったことをやっているのがわかると学生の参加を促進できるのではないか。

A：昨年度大学に話をしていたが学生の都合がつかなかったのでお断りされた経緯があ

る。文化祭の PR は市政だよりで行っているという状況。

・泉区民ふるさとまつり

Q：有料観覧席はどれくらいを見込んでいて実際はどれくらいだったのか。

A：販売したのは 4 割程度。6 割を見込んでいた。周知広報が不十分だった点もあるので今年度はそこにも力を入れていきたい。

Q：待っていても協賛金が集まるわけではない。七北田に著名人がたくさんいるので協賛金を集めるために地域の著名人とのタイアップなど目を引くようなことを検討してはどうか。何かタイアップすると面白いのではないかと思う。

A：実行委員会で今後検討していく。

Q：来場者はどのようにカウントしているのか。

A：定時にカウントを行っておりそれをもとに算出している。

Q：電波が届かないことがあったので移動基地局など検討してはどうか。

A：ドコモはすでに配備している。AU は検討中。ソフトバンクは足りているとの見解だった。

・七北田川クリーン運動事業

Q：毎年参加しているが、ゴミが少なく探すのが大変。袋の方が多いという意見がある。また、参加記念品を頂いているが使わないものではないか、違うものに替えてはどうか。いらないのではないか。

A：宮城テレビの協賛で提供いただいているもの。参加品はテレビ番組の周知も兼ねており、また例年アユも提供して頂いているので意向を確認しながら検討していきたい。

Q：せっかくもらっても使わないのは勿体ないので検討をお願いしたい。

Q：アユの放流の成果は？

A：平成 30 年に調査を行っており遡上はしていることは確認できている。

Q：アユはどれくらい放流しているのか。

A：第 1 会場が 1,500 匹、第 3 会場が 3,500 匹で合計 5000 匹を放流している。

・泉ヶ岳悠・遊フェスティバル事業

Q：イベントに合わせて臨時バスの運行など交通渋滞対策はとっているのか。

A：昨年度から会場間のシャトルバスを無料で運行した。令和 6 年度は大きな渋滞なくイベントを実施できている。会場へのアクセスは市営バスがメインになるが増便は行っていない。

Q：目的に自然の大切さということが書かれているが、自然と直結しているのが登山くらいのようなが、他に自然に関係するものがあれば教えてほしい。

A：登山、リフトの無料運行、テントサウナの無料体験などを行っている。会場に設け

ているブースの一部で市民会議の方々がブースの運営を行っている、そのブースの中で自然に関する活動のPRしている。

Q：新しいジャンルの出店も必要ではないか。既存団体で埋まっていたりするので、公募にして新しい団体を入れるのがいいのではないか。この先減速注意などの看板を立てると渋滞緩和につながるのではないか。

A：検討する。

・区民意識普及啓発事業

Q：区民憲章についてホームページのトップからわかりやすく入れるようにして普及啓発に努めてはどうか。写真コンクールと区民憲章との関係性は何か。

A：泉区の魅力応募者の多くが自然や行事等、に焦点を当てているものが多く、またスマイルの方は家族の温かさを感じる写真が多く、よりよく生きる、生活に根差した区民憲章につながる部分が多いと言える。

Q：東北ブロック研修会を泉区で開催しているがその運営費 90 万は団体から支給されているのか。

A：団体から支給や仙台市の補助金のほか、参加者から会費を頂いて運営費に充てている。

Q：今年度も写真コンクールを行うのか。参加者が少ないのもっと周知広報を行ってはどうか。

A：現在の実施方法が印画紙に写真を焼いていただくのでハードルが高い。今後気軽に応募できるようにデジタル化も検討していきたい。

・青少年健全育成事業

Q：夏休みの後にあるが、各学校で代表を決定する際は生徒に個別に声がけするのか。

A：事務局として指定はしていない。個別に声かけしてやっていただく場合もあるし、選ばれてきている場合もある。

Q：先生が声をかけた人が参加している現状がある。参加者全員が金賞をもらう。学校で決めることではあるが、評価にもかかわってくるので難しい問題ではないか。15歳の生徒が考えていることと先生がいい思うものではずれがあると感じている。そのあたりはどう考えているか。

A：最優秀賞1人、優秀賞2人、他の方が優良賞となる。また、事務局としては学校に選出の手法まで指定はできない。実行委員へ伝えてみる。

Q：去年はリモートだったと聞いている。今年はどういう予定か。

A：会場校からも熱中症対策が不十分になってしまうので、空調設備が整っているところで実施したいとの話がある。会場校の生徒がリモートで見えるかどうかは今後検討する。昨年同様になるかと思われる。

Q：熱中症対策として時期の変更はできないのか。

A：県大会が9月の上旬のため地区大会はそれに合わせて実施しないといけないため難しい。

・地域子育て交流会

Q：町内会で集会所で子育て支援を行っている。震災の年から行っており10年以上になるが、色々な方が来る。フィリピンの方がいらっしゃったり、中国の方がいらっしゃったりするが、そういった方は習慣や学校のお便り一つの違いも難しい。こちらから関わっていかないと孤立につながる。民間ではできることに限度があるので、行政に入ってもらえると心強い。外国人も支援してもらえるとよい。

A：子育てサロンやサークルでの支援も行っている、また、ネットワーク会議で顔の見える関係を築いている。まずは知ることから実施していければと考えている。関係者同士がつながることで連携がとりやすくなっていると感じている。

Q：目的の支援の幅が広がった状態とは具体的にはどういった状況か。

A：各々の関係機関や職種、団体がどういったか活動をしているか見えないところがある。活動の紹介を行うことで、職種や活動を理解し合うことで支援に入ってもらいやすくなる。

Q：すごくいい取り組み。ネットワークをコーディネートしていくというようなことか。

A：各々の団体に気付きを得てもらうということもある。

Q：助成金が0円だが手弁当なのか。

A：講師の方へは今回謝礼は支払っていない。活動紹介の時間もそれぞれの団体から紹介を行ってもらい後はグループワークをメインにたくさん話し合えるような時間としている。